

人間社会研究科

I 2012 年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016 年度大学評価結果総評】

人間社会研究科では「求める教員像および教員組織の編制方針」が具体的に明確化されており、必要な役割分担、責任の所在が明らかにされている。カリキュラムに必要な十分な教員が配置され、教員の年齢構成のバランスはとれている。教員の募集・任免・昇格については、それぞれ明文化された規則、内規が整備されており、それに従った審査が行われている。授業改善アンケートを教育内容・研究活動の質向上に活用しており、学部と研究科共催の Well-being 研究会で、優れた教育実践を学び、共有している。これを発展させ、具体的な研究活動活性化の方向を追究する姿勢は評価できる。

教育課程・教育内容については、福祉社会専攻・臨床心理学専攻修士課程、人間福祉専攻博士後期課程ともに、専攻ごとの学習成果や修了要件等を明確にした学位授与方針が明確に示されており、それに基づき、修士課程と博士後期課程の連携がコースワーク、リサーチワークそれぞれで実現されている。研究科長・専攻主任のインタビューによると、臨床心理士が国家資格化されることに対応して、2018 年度入学者から新カリキュラムを導入することが決定されており、高く評価できる。

教育方法では、学生に正副 2 人の指導教員をつけ、指導を個人任せにしないなど、きめ細かい指導が行われている。「論文関連日程一覧」を大学院要項に掲載するほか、論文作成・審査のプロセス及び諸手続きを「学位論文について」に明示することで学生に日程を周知している。修士論文構想発表会、修士論文発表会、博士論文構想・中間報告会、博士論文発表会の実施により学生の達成度がフォローされているほか、学生による授業改善アンケート結果が良好な教員による発表が Well-being 研究会でおこなわれて、授業改善の成果や課題を教員間で共有されているのは、興味深い取り組みである。

シラバスに関しては、これまで通り、教務委員会でシラバスの内容点検が行われるのに加え、学生による授業改善アンケートを活用して授業がシラバスに基づいて行われているかをチェックするように改善されたのは評価できる。一方で、学位論文についての評価の適切性については確認されているが、各講義科目の成績評価と単位認定の適切性についても、研究科長と専攻主任が昨年度の成績情報を適切に確認した。

教育の成果については、全国で活躍する研究者を一定数輩出していること、臨床心理士の資格取得率が極めて高いことは学生の学習成果を示すものであろう。また、「同窓会」を通じて、卒業生の進路・就業状況を組織的に把握しようとしていることは、今後さらに増加する修了生需要に対応するだけでなく、修了生相互の協力関係を育てる意味で評価できる。

学生の受け入れに関しては、定員に対する専攻ごとの過不足に対し、試験の回数やさまざまな広報活動によってきめ細かな対応が行われている。学生支援については、今後増加するであろう留学生への対応がさらに整備されることが期待される。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

おおむね高く評価して頂いた、求める教員像および教員組織の編制方針、教育課程・教育内容、教育方法、シラバス、教育の成果などの項目については、継続的に発展させていく。また、留学生への支援体制については、さらなる整備が期待されており、研究科教務委員会、各専攻で検討を進め、研究科として改善に努めたい。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

人間社会研究科は、2016 年度大学評価において高い評価を受けており、求める教員像および教員組織の編制方針、教育課程・教育内容、教育方法、シラバス、教育の成果などの項目については、引き続きこれまでの取り組みの発展に努めていきたい。

また、期待されている留学生の支援体制の整備については、すでに留学生を対象とする日本語教育科目の開講や論文執筆を中心とするチュートリアル制度について検討されているが、今後さらにこの努力を継続して追及されたい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・研究科長、学部主任経験者の2名から構成されている。
- ・12月、2月に総計2回開催した。
- ・12月の委員会では、研究科執行部（研究科長、専攻主任）へインタビューを行い、研究科の課題とその対応について、特に留学生に対する指導の現状と課題、さらに日本語指導、研究指導、論文指導のあり方について議論した。
- ・2月の委員会では、教育課程・教育内容、教育方法、成果、学生の受け入れ、学生支援等に関して、現状の課題・今後の対応等に関する教授会執行部による点検・評価の妥当性に関して総合的に検討した。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「特になし」	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科質保証委員会は研究科長と学部長経験者の2名から構成され、2016年度は計2回開催されている。研究科の課題ならびにその対応についての議論・検討、教授会執行部による点検・評価の妥当性に関する総合的な検討を行っていることから、質保証委員会は適切かつ効果的に機能している。特に研究科長・専攻主任へのインタビューなどが実施され、質保証を重要視した研究科の対応は大きく評価されることである。

2 教育課程・教育内容

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の期間在学し、所定の単位を修得したうえで、現代社会の中にWell-beingを実現することができる人材の育成という本研究科の教育目標を踏まえ、以下の水準に達した院生に学位を授与する。

(修士課程)

■福祉社会専攻

福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（福祉社会）」・「修士（学術）」を授与する。

- 【DP1 専門知識】 社会福祉及び地域づくりと研究方法に関する必要な専門知識を有する
- 【DP2 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP4 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
- 【DP5 研究力】 自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

■臨床心理学専攻

心のケアの専門家に必要とされる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（臨床心理学）」を授与する。

- 【DP1 専門知識】 臨床心理学と研究方法に関する必要な専門知識を有する
- 【DP2 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP4 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【DP 5 研究力】 自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる

(博士課程)

■人間福祉専攻

先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「博士 (人間福祉)」、「博士 (学術)」を授与する。

【DP 1 専門知識】 先端的研究と研究方法に関する高度な専門知識を有する

【DP 2 読解力】 内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる

【DP 3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP 4 実践能力】 職業人として必要とされる高度な実践能力を有する

【DP 5 研究力】 先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる

①研究科 (専攻) として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件 (卒業要件) を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

(修士課程)

■福祉社会専攻

【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

【CP 1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく

【CP 2】 DP2 読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく

【CP 3】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

【学習方法・順序等】

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、研究のデザインと研究方法、データ収集とデータ分析の技法について、複数教員による多様な視点からの講義を受ける。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に即した指導教員が行い、秋学期に研究構想を固め、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

■臨床心理学専攻

【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

【CP 1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、近年の臨床心理学へのニーズの多様化・高度化に応じた臨床心理学の基幹を修得する「専門基幹科目」、それらをより深く展開する「専門展開科目」をおく

【CP 2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、臨床実践に関する「実習科目」と修士論文に収斂する「研究指導科目」をおく

【学習方法・順序等】

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、臨床心理士に必要な臨床実践技術について、複数教員による多様な視点からの講義と事例研究を行う。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に即した指導教員が行い、秋学期に

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- 研究構想を固め、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
 - ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

(博士課程)

■人間福祉専攻

【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

- 【CP1】 DP1 専門知識、DP2 読解力、DP3 表現力を養成するためコースワークとして、福祉系・地域系・臨床心理系の科目（「特殊講義」）をおく
- 【CP2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

【学習方法・順序等】

- ・個別指導を受けるだけでなく、コースワークとして、関連分野の講義を受講する。
- ・リサーチワークとしての博士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に即した指導教員が、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、専攻の全教員参加のもとで、1年次には学位論文の構想を発表し、2、3年次には学位論文の中間発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
--	---

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
--	---

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・『2017年度大学院要項』（学位論文について）
- ・2017年度人間社会研究科パンフレット
- ・<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html>

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
--	---

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。
専攻会議、教務委員会、研究科教授会において学位論文の水準の適格性を点検しつつ、学位授与方針や教育課程の適切性そのものについても意見交換している。2013年度に学位基準の一部を改正して要件を明確にした。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科教授会議事録

2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
--	---

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。
コースワークとして(1)専門共通科目(福祉社会専攻)、専門基幹科目(臨床心理学専攻)、(2)専門展開科目(両専攻)を設定し、その上で、リサーチワークの演習科目(福祉社会専攻)、研究指導科目(臨床心理学専攻)を配置し、適切に開講し、教育課程を体系的に編成している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2017年度大学院要項』（福祉社会専攻カリキュラム構成図、臨床心理学専攻カリキュラム構成図）

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
-----------------------------------	---

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2017年度大学院要項』（人間福祉専攻の修了要件）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>「選択・必修科目」では、福祉系・地域系・臨床心理系の科目がコースワークとして開設されており、「必修科目」としてリサーチワークに重点を置いた特別演習が設けられている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・『2017 年度大学院要項』（人間福祉専攻カリキュラム構成図）</p>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>各授業において専門分野の高度化に対応した内容を提供している。</p> <p>福祉社会専攻では、「福祉社会研究法」において、研究方法論等をオムニバス形式で講義し、高度化に対応した研究能力の向上を図っている。</p> <p>臨床心理学専攻の「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」では複数の教員が担当し、臨床心理士に必要な臨床実践技術の講義や事例研究を行い、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス</p>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を図っている。また、福祉社会専攻では、英語専任教員による「原書購読研究」を開講し、非英語圏からの留学生及び英語圏への留学希望者を中心に、専門文献の読解を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・応募、採用状況（大学委員会資料）</p> <p>・シラバス</p>	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会として、入学時のガイダンスで新入生全員に履修指導を行っている。 ・指導教員が個別に研究テーマに即して履修を指導している。 ・修士課程、博士後期課程とも、2年次から副指導教員を定め、指導を個人任せにしていない。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・『2017 年度大学院要項』（履修について、指導教員について）</p> <p>・新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配付資料</p>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究スケジュールについては、「論文関連日程一覧」を周知している。 ・論文作成・審査のプロセス及び諸手続きについては、「学位論文について」で周知している。 	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・『2017 年度大学院要項』（論文関連日程一覧、学位論文について）</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400 字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>研究科教授会において論文構想発表、中間報告、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究スケジュールを決定し、それに基づき適切に実施している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・研究科教授会議事録</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・教務委員が分担して全てのシラバスのチェックを行ない、研究科の統一ルールに基づいて必要に応じて担当者に修正等を求めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科主任・教務委員会資料 ・シラバス入力の手引き	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・授業改善アンケート結果を活用し、シラバスに基づいて授業展開されているかを教務委員会において検討している。 ・授業改善アンケートの自由記述の内容から担当教員との対応が必要とされた場合は、研究科執行部が担当教員と懇談を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科主任・教務委員会資料	
2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・学位論文の評価については、論文発表会を行い、適切性を確認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教授会議事録	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。 ・2011年度に各専攻の学位基準を制定し、2013年度の一部改正を経て運用している。学位基準は『大学院要項』に掲載し、周知している。	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・『2017年度大学院要項』（人間社会研究科修士課程・博士課程学位基準）	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限などを把握している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・修了年次管理表	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 専攻ごと、年度中盤に実施する中間・構想発表会、年度末に実施する論文発表会には、指導教員以外の教員も出席し、活発に質問・意見等を交換し、研究科全体として学位論文の水準の向上と、水準の検証に努めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・中間・構想発表会スケジュール表 ・年度末に実施する論文発表会スケジュール表	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【修士】 （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。 ・指導體制の明確化 4月に開催される研究科教授会において、入学直後に提出される指導希望教員届けに基づいて指導教員を決定し、翌年の1月に開催される研究科教授会において副指導教員を決定している。 ・手続 各専攻とも修士論文構想発表会（1年次）と修士論文提出後の口頭試問を行っている。 ・適切性の確認 修士論文発表会を行い、学位授与の適切性を確認している。	
【博士】 （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。

・指導体制の明確化

指導教員承認届に基づいて研究科教授会で指導教員を決定し、翌年の1月に開催される研究科教授会において副指導教員を決定している。

・手続

博士論文構想発表会（1年次）と博士論文中間発表会（2年次と3年次）を行い、研究内容と論文構成について指導している。

論文受理審査（1次、2次；複数名の委員が担当）に合格した論文については、学外の委員を含む複数名で構成される博士論文審査委員会で審査（口述試験を含む）を行い、その結果を踏まえて研究科教授会で合否の審議を行っている。

・適切性の確認

合格した博士論文については博士論文発表会（公開）を行い、学位授与の適切性を確認している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・研究科教授会資料

・『2017年度大学院要項』（学位論文について「1. 修士課程」「2. 博士後期課程（課程博士・論文博士）」）

⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。

・「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限などを把握している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「修了年次管理表」

2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。

S A B

（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。

・30名の課程博士、5名の論文博士を授与しており、全国で活躍する研究者を一定数輩出している。

・臨床心理学専攻では、臨床心理士の資格取得率が96.5%に達しており、十分な成果をあげている。また、修士論文の研究成果を関連諸学会で発表、あるいは「相談室紀要」に投稿している。こうした成果については毎週開催されている臨床心理学専攻会議において全教員が把握している。

・人間福祉専攻では、毎年度の研究成果を報告書にまとめ、指導教員へ提出することを義務付けており、研究の進展を可視化している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2002-2016 博士学位授与者一覧

・臨床心理士受験・合格状況（2002～）

2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

（～400字程度まで）※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入

専攻ごとに修士論文構想発表会、修士論文発表会、博士論文構想・中間報告会、博士論文発表会を行い、教育成果の検証を、専攻及び研究科として定期的に行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・研究科主任・教務委員会資料

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S A B

（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入。

2015年度まで、アンケート結果が良好な教員から、Well-being研究会（現代福祉学部との合同開催）で事例研究として講義方法の概要を発表して貰っていたが、2016年度は事例研究会を開催するまでには至らなかった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「特になし」	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・継続して研究科長と専攻主任が学生による授業改善アンケートの結果を確認し、対応が必要と思われる科目については授業担当教員と面談を行うが、今後は、授業改善アンケート結果をこれまで以上に組織的に利用すること(例:事例研究会の開催)が課題である。
- ・公認心理師法が平成27年9月16日に公布され、平成29年9月15日までに施行される予定であるから、公認心理師受験資格を与えるために必要なカリキュラムを検討することが課題である。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1~2.2)

人間社会研究科の修得すべき学習成果、その達成のための修了要件を明示した学位授与方針、その達成のための教育課程の編成・実施方針が適切に設定され、「2017年度大学院要項」「2017年度人間社会研究科パンフレット」およびホームページにより、周知・公表されている。専攻会議、教務委員会、研究科教授会において学位授与方針や教育課程そのものについて意見交換を行い、適切性の検証が行われている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

人間社会研究科では、修士課程、博士後期課程とも、コースワーク、リサーチワークの組み合わせのうえで研究が進められるよう配慮されている。博士後期課程においては「必修科目」としてリサーチワークに重点を置いた特別演習が設けられている。各授業において専門分野の高度化に対応した内容を提供し、グローバル化推進のための海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などの大学補助金制度を周知し利用の促進を図っており適切である。特に福祉社会専攻では英語専任教員による「原書講読研究」を開講し、留学生希望者を中心に専門文献の読解等を行っている。今後もグローバル化を視野に入れた教育の推進に注力してほしい。

③教育方法に関すること (2.4)

人間社会研究科では入学時に新入生全員に履修指導を行っている。研究スケジュールは「論文関連日程一覧」により周知しており、指導教員は個別に研究テーマに即して履修を指導している。2年次からは正副2人の指導教員によりきめ細かい指導を実施している。

また、シラバスの作成は教務委員が分担して全てのシラバスのチェックを行い、研究科統一のルールに基づき、必要に応じて担当者に修正等を求めている。

授業がシラバスに基づいて行われているかどうかは、授業改善アンケートの結果を活用し、教務委員会において検討され、必要とあれば研究科執行部が担当教員と懇談を行っていることから、適切に検証されていると考えられる。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5~2.7)

人間社会研究科の学位論文審査基準は2011年に制定されており大学院要項に掲載され周知されている。学位授与状況については「修了年次管理表」が作成され、適切に把握されている。

また、学位論文の水準は、中間・構想発表会および論文発表会に指導教員以外の教員が参加し意見交換をするなど取り組みがなされ適切である。

学位授与の責任体制は、教授会を通じて明確化が図られており、その手続きから適切性の確認に到るまで適切に行われている。修士の学位授与に関しては、各専攻とも修士論文構想発表会と口頭試問の結果に基づき授与が決定されており適切である。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

(修士課程)

■福祉社会専攻

【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生、専門職についている等の社会人、外国人留学生で、地域社会を基盤に Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき能力】

【AP 1 知識】 4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している

【AP 2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している

【AP 3 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP 4 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

【入学者選抜の方針】

- 1 筆記試験により、AP 1 知識、AP 2 英文読解力について問う
- 2 口述試験（面接）において、AP 3 思考・判断、AP 4 意欲・関心を問う
- 3 外国人留学生及び社会人については、AP 1 知識、AP 3 思考・判断、AP 4 意欲・関心によって選抜することとし、AP 2 英文読解力の筆記試験は免除する
- 4 学内進学者については、AP 3 思考・判断、AP 4 意欲・関心のみによって選抜する。

■臨床心理学専攻

【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生や、専門職についている等の社会人で、人間の「生」(Life) をトータルに捉え Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき能力】

【AP 1 知識】 4年制大学の心理学科卒業程度の臨床心理学領域を中心とした心理学に関する知識を有している

【AP 2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している

【AP 3 表現力】 問題状況に関する自身の見方を他者へ正確に伝達できる

【AP 4 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP 5 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

【入学者選抜の方針】

- 1 筆記試験により、AP 1 知識、AP 2 英文読解力を問う
- 2 口述試験（面接）において、AP 3 表現力、AP 4 思考・判断、AP 5 意欲・関心を問う

(博士課程)

■人間福祉専攻

【求める学生像】

修士課程修了の一般学生のほか、研究職や高度の専門職に就いている社会人で、地域社会を基盤に人間の「生」(Life) をトータルに捉え、Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき知識・能力】

【AP 1 知識】 当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している

【AP 2 英文読解力】 研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- 【AP3 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
 【AP4 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している
 【AP5 研究力】 先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法を持って、研究に取り組める

【入学者選抜の方針】

- 1 既執筆論文と論文執筆計画の提出を求め、AP1 知識、AP3 思考・判断、AP5 研究力を問う
- 2 筆記試験により、AP2 英文読解力を問う
- 3 口述試験（面接）を行い、AP3 思考・判断、AP4 意欲・関心、AP5 研究力を問う

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～200 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

上記の【学生の受け入れ方針】に掲げたポリシーに基づき、福祉社会専攻では①学内選抜入試、②一般選抜入試、③社会人自己推薦選抜入試、④外国人留学生選抜入試、臨床心理学専攻では①学内選抜入試と②一般選抜入試、人間福祉専攻では①一般選抜入試を実施し、すべての入試において教務委員会で実施体制を検討し、教授会において確認している。さらに、入学者選抜の方針に従い、複数の教員が筆記試験と口述試験を担当し、公正な入学者選抜となるようにしている。

また、作問採点担当委員と口述試験担当委員が入試直後に実施および採点結果について検討を行い、改善すべき事項が生じたときは、次年度の入試に備えて教務委員会と教授会において改善策を検討している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・人間社会研究科修士課程・博士後期課程・研修生 2017 年度入学試験要項
- ・2017 年度学内選抜入試要項
- ・研究科教授会資料

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

福祉社会専攻では、入学定員確保のため、市ヶ谷キャンパスでの一部夜間開講、学外及び学部生への広報の改善、同窓会設立を通じた社会人受け入れの開拓等を実施している。また研究室訪問を制度化し、学外の受験希望者が指導教員の選択や研究テーマを明確化するのに役立てている。

臨床心理学専攻では、定員超過を起こさないよう、3 回の入学試験で段階的に定員充足するよう努めている。

研究科のプレゼンス向上のため、多摩共生社会研究所、各種研究プロジェクトと共同して地域に開かれた研究会を開催している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2017 年度大学院要項』
- ・研究科主任・教務委員会資料
- ・多摩共生社会研究所・人間社会研究科共催公開研究会案内

定員充足率 (2012～2016 年度)

(各年度 5 月 1 日現在)

【修士】

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5 年平均
入学定員	30 名					
入学者数	22 名	22 名	23 名	26 名	22 名	
入学定員充足率	0.73	0.73	0.77	0.87	0.73	0.77
収容定員	60 名					
在籍学生数	47 名	48 名	46 名	53 名	55 名	
収容定員充足率	0.78	0.80	0.77	0.88	0.92	0.83

【博士】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	5名	5名	5名	5名	5名	
入学者数	1名	4名	4名	2名	3名	
入学定員充足率	0.20	0.80	0.80	0.40	0.60	0.56
収容定員	15名	15名	15名	15名	15名	
在籍学生数	8名	9名	13名	14名	16名	
収容定員充足率	0.53	0.60	0.87	0.93	1.07	0.80

※定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00以上

【定員未充足の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士	0.5未満
博士	0.33未満

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

研究科教務委員会及び研究科教授会において、大学院説明会や受験相談会（河合塾心理職進学フェアを含む）の状況を詳細に報告し、教員間で状況を共有している。

入学者選抜にあたっては、各専攻、研究科教務委員会、研究科教授会で厳正に確認、決定しており、公正かつ適正に実施されている。特に英語の選択問題については、公正に実施できるよう改善に努めている。

入学手続きの結果については、研究科教務委員会及び研究科教授会において確認、検証している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科主任・教務委員会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「特になし」	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・博士後期課程の入試における英語の選択問題において、さらなる公平性を保つことを検討する。

【この基準の大学評価】

人間社会研究科の学生の受け入れ方針は具体的かつ適切に設定され公表されている。また、学生募集制度も整備されており、入学者選抜も適切に実施されている。

一方、入学定員確保については、福祉社会専攻では様々な効果的な方策が取られており、功を奏している。同窓会を通じた社会人受け入れの開拓、広報の改善、一部夜間開講など、専攻の努力が伺える。臨床心理専攻では定員超過を起こさないよう、3回の入学試験で段階的に定員を充足するよう工夫をするなど適切な対応がとられている。これらの取り組みにより修士・博士ともに理想に近い定員充足率が維持されていることは大きく評価されることである。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

学生募集および入学者選抜の結果については、大学院説明会や受験相談会での状況が教員間で共有されており適切と判断される。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【教員像および教員組織の編制方針】 (2011年度自己点検・評価報告書より)

人間社会研究科の教員には、上記の大学・研究科の教育理念の基本的理解を前提として、(後述する)各専攻の教育目標並びに研究科・専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、教育に当たることが要請される。とりわけ高度専門職業人及び研究者養成のために、学生たちの研究課題の決定、研究へのアプローチと方法論など質の高い研究を指導できる教員が求められる。

人間社会研究科には3つの専攻が設置されており、教員組織の編制方針はそれら専攻の学問領域に配慮した編制となっている。具体的には福祉社会専攻の教員はソーシャルワーク、システムマネジメント、コミュニティデザインなどを専門とする専任教員が配置され、臨床心理学専攻では臨床心理士や精神科医の資格を有する専任教員が担当している。また修士課程の福祉社会専攻と臨床心理学専攻を総合した人間福祉専攻(博士後期課程)には、福祉社会・臨床心理学両専攻担当の教授クラスの教員が配属されている。修士論文や博士論文の作成に当たって専任教員が正・副の指導教員となり、複数での指導体制をとっている。このため、専門分野の質の高い研究力はもちろんのこと、隣接する学問領域への関心を持ち合わせた柔軟な思考力を具備した教員組織の編制方針が了解されている。

① 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・求める教員像および教員組織の編成方針(2011年度自己点検・評価報告書)
- ・「専任教員招聘規則」及び「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」

② 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・研究科執行部(研究科長、専攻主任の3名で構成)が研究科運営の執行責任を負っている。
- ・研究科教務委員会(福祉社会専攻4名、臨床心理学専攻2名、人間福祉専攻1名の計7名で構成[うち3名が研究科長、人間福祉専攻主任、福祉社会専攻主任を兼ねている])において、ガイダンス、大学院説明会、論文発表会、シラバス点検をはじめとする必要な役割を分担し、研究科の運営にあたっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「人間社会研究科主任・教務委員会」資料、研究科教授会議事録

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

① 研究科(専攻)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

下記の【根拠資料】に示す通り、3専攻ともそのカリキュラムにふさわしい数の教員を配置している。教員1人あたりの学生数も適正である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下表参照。

2016年度研究指導教員数一覧(専任)

(2016年5月1日現在)

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
(修士)福祉社会	14	14	3	2
(修士)臨床心理	8	7	2	2
修士計	22	21	5	4

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(博士) 人間福祉	20	20	3	2
研究科計	42	41	8	6

研究指導教員 1 人あたりの学生数：修士人 2.50、博士 0.80 人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】（～200 字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

博士課程の指導においては指導経験が豊富なベテラン教授を必要とするが、定年延長者に頼ることなく、50 歳台の教員が主軸になっており、50 歳台を中心に、全体として年齢構成のバランスはとれている。また、2017 年 4 月には「31～40 歳」に入る教員が教授会構成員として加わり、より良いバランスとなった。

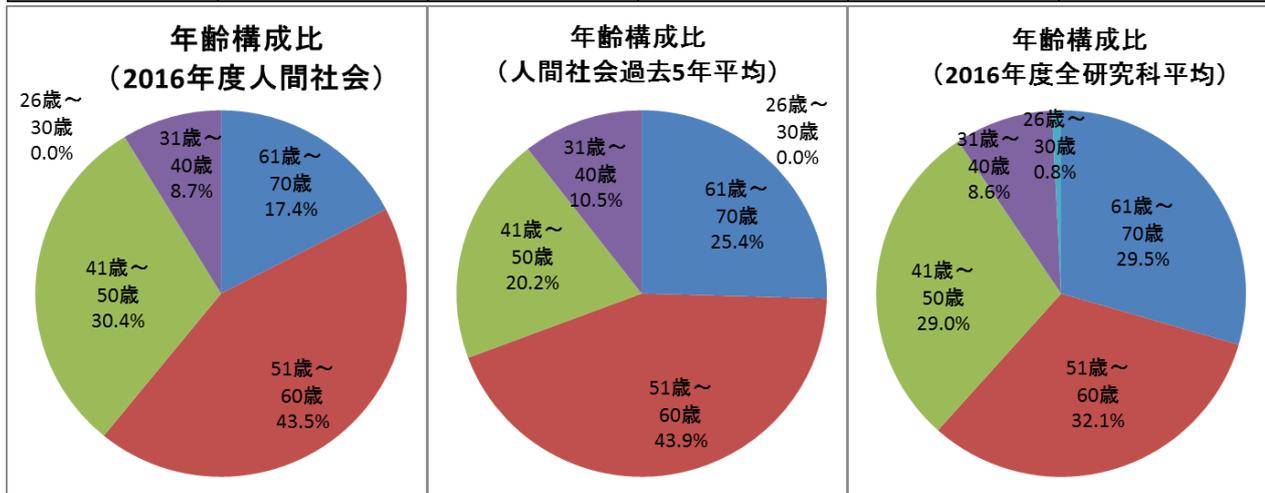
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部教授会回覧資料（採用教員履歴書）

専任教員年齢構成一覧

(5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2016	0 人	2 人	7 人	10 人	4 人
	0.0%	8.7%	30.4%	43.5%	17.4%



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・募集・任免に関しては、「専任教員招聘規則」
- ・昇格に関しては、「専任教員の身分昇格」（学部教授会内規 3-1）、「教員の採用及び昇格の選考に関する規定」（学部教授会内規）
- ・「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」（研究科内規）

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を箇条書きで記入。

- ・教員の募集・採用にあたっては、学部教授会において、学部の講義科目だけではなく、大学院の講義科目や研究論文指導についても検討した上で選考にあっており、学部教授会と研究科教授会との連携を確保している。
- ・昇格の審査にあっても、学部の講義科目だけではなく、大学院の講義科目や研究論文指導についても検討した上で決定しており、学部教授会と研究科教授会との連携を確保している。
- ・博士後期課程の講義及び論文指導の担当については、選考基準にもとづき研究科教授会で決定し、指導の質を保証している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・公募書類
- ・学部教授会議事録
- ・研究科教授会議事録

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

① 研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。	S A B
<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートを各教員が資質向上のために活用している。 ・授業改善アンケートの結果を研究科教務委員会が検討し、必要な対応を行っている。 ・学部と研究科共催で外部講師を招聘し、障害者総合支援法、障がい学生の支援の実態、今後の課題等について講義を受けた。本学の障がい学生支援室からの参加者もあり、有意義な学習会とすることができた。 <p>【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-being 研究会 2016年11月16日（水）、福祉301教室 名川 勝講師（筑波大学人間系障害科学域）「障がい学生の支援について」 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-being 研究会案内 ・研究科教授会議事録 	
②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。	S A B
<p>【研究活動活性化の取り組み】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-being 研究会において、教員の研究テーマや研究成果概要を発表しあい、問題関心の共有と研究の活性化に努めている。 2016年6月25日（土）、市ヶ谷キャンパス 富士見校舎 833教室 関谷秀子教授 「発達論からみた思春期の心理的問題へのアプローチ—実証研究の知見から」 宮地さつき助教 「マルチリトメントへの予防的介入～福島県におけるスクールソーシャルワーク実践から」 2017年3月8日（水）、現代福祉学部 301教室 津村麻紀助教 「総合病院のがん治療における心理職の活動モデルに関する研究」 伊藤正子教授 「アスベスト問題からみる日本的SHGの可能性」 久保田幹子教授 「森田療法の臨床および効果研究」 ・研究科と多摩共生社会研究所との共催で、公開研究会やシンポジウムを行っている。 ・『現代福祉研究』（現代福祉学部紀要）に各教員の年度ごとの研究成果を掲載し、情報を共有している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-being 研究会案内 ・多摩共生社会研究所公開研究会案内・プログラム ・『現代福祉研究』（第17号） 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「特になし」	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

特になし

【この基準の大学評価】

<p>教員の採用・昇格の基準については「専任教員招聘規則」および「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」に明示されている。人間社会研究科の執行部の構成、委員会等の役割、責任体制も明確でありかつ教員の連携も適正になされている。一方、専任教員の年齢構成は、50歳代の教員が中心となったバランスの取れた年齢構成となっている。過去5年と比較すると、改善した結果であり、研究科の努力が伺える。</p> <p>この他の教員・教員組織の評価についての事項については、適切であると判断される。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

S A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

新入生ガイダンスにおいて、学生生活に関する諸制度及び手続きについて、『大学院要項』をもとに丁寧に説明している。奨学金関連の書類が急ぎ必要な学生には、研究科教務委員会が組織として対応している。

TA・チューター希望者に漏れなくチューターが配置できるように、研究科教務委員会がマッチングに責任を持っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2017年度大学院要項』
- ・研究科主任・教務委員会資料
- ・研究科教授会議事録

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「特になし」	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・福祉社会専攻において、留学生を対象とする日本語教育科目の開講に向けた検討を行う。
- ・留学生を対象とした論文執筆を中心とするチュートリアル制度について検討する。

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、新入生ガイダンスの際の丁寧な説明、奨学金関連については緊急の場合に教務委員会による組織的な対応がなされており適切である。チューターにおいては教務委員会がマッチングに責任を持つなど適切な対応がされている。さらに、今後に向けて留学生向けの日本語教育科目の設置、および留学生を対象とした論文執筆を中心とするチュートリアル制度の制定が検討されており適切であると判断される。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		研究科としての教育・研究力のより一層の向上を図るため、研究活動を活性化する方策を検討する。研究に関わる情報交換の場や意見交換の機会をつくることや、共同研究を促進することなどの、必要性と可能性を、各専攻において、また研究科として検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	教務委員の中で、専攻及び研究科の研究活動を活性化する方向性について検討した。必要性については合意できたが、具体的な場の設定までには至らなかった。
	質保証委員会による点検・評価	教育・研究力の一層の向上を目指し、教務委員会を中心に研究活動を活性化する方向性について検討が進められており、こうした目標は達成されている。しかしながら、具体的な検討の場の設定及び内容の検討には至っておらず、この点に関しては、今後の取り組みが期待される。
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉社会専攻においては、ディプロマ・ポリシーと教員組織に応じた科目配置や系の見直しをはじめとしたカリキュラム改革の方針について検討を深める。 ・臨床心理学専攻では、公認心理師の指定科目の判明を待ちつつ、必要となる教育課程及び教育内容の変更に対応するための準備を進める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 福祉社会専攻においては、教員懇談会においてカリキュラム改革の方針について検討を重ねてきた（6月15日懇談会、12月14日懇談会、1月25日懇談会）。これをもとに、次年度に行うべき具体的な課題を整理した。3月15日の懇談会で①現カリキュラムのポイントおよび特徴、②日本社会福祉教育学校連盟の「ガイドライン」（2016年11月）、③「コミュニティ」「マネジメント」の院生育成、という3つの側面からの問題提起をもとに、カリキュラム改革の方向性について検討を深める。 臨床心理学専攻では、国による公認心理師の指定科目の策定を待ちつつ、カリキュラム改革に向けた課題を検討してきた。
	質保証委員会による点検・評価	福祉社会専攻においては、教員懇談会を開催し、カリキュラム改革の方針について具体的な検討がなされ、また、臨床心理学専攻において、公認心理師カリキュラムについて具体的な検討がなされているなど、教育課程・教育内容の改善に関する当初の目標は達成されている。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		各講義科目の成績評価については、受講生が少人数であるため、評価の分布の適切性を検証することは難しいが、今年度は成績評価に著しい偏りがあるかどうかの点検を行うこととする。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	全ての講義科目の成績を点検し、成績評価に著しい偏りがないことを確認した。
	質保証委員会による点検・評価	全ての講義科目の成績を点検し、成績評価に著しい偏りがないことを確認されており、当初の目標が達成されている。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		学位の水準を保つための取り組みとして、福祉社会専攻では、今年度より論文構想発表の曜日を変更し、教員の参加をより一層拡大し、指導の充実を図る。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	福祉社会専攻では、修士論文の中間・構想発表会を11月30日（水）に行い、専任教員の出席を改善させ、質疑応答、討論を充実させた。
	質保証委員会による点検・評価	論文構想発表会の開催曜日を水曜日に変更することで教員の出席率が改善しており、教員の参加を拡充するという当初の目標は達成されている。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> 福祉社会専攻において、現代福祉学部学生の学内進学拡大に向けた課題について検討する。 社会人受験者確保のため、学部卒業生及び修士課程修了者への広報の改善に努める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 福祉社会専攻では、カリキュラム改革の前提として、学内進学拡大に向けての課題を検討した。 福祉社会専攻修士課程修了者に対して、従来通り、博士論文構想発表会（6月16日）を広報した。それに加え、今年度は、研究科と多摩共生社会研究所とが共催する研究会（3月18日）での研究報告と参加を呼びかけた。
	質保証委員会による点検・評価	福祉社会専攻において、現代福祉学部学生の学内進学拡大に向けた課題について検討が行われ、また、社会人受験者確保のための学部卒業生及び修士課程修了者への広報を具体的に実施するなど、学生の受け入れに関する当初の目標は達成されている。
評価基準		学生支援
現状の課題・今後の対応等		留学生の増加に鑑み、対応すべき課題は何か、福祉社会専攻教務委員を中心に検討を進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	福祉社会専攻の教員懇談会において、留学生指導の改善の課題を検討し、社会調査入門講義、論文執筆指導科目の創設を目指すこととした。
	質保証委員会による点検・評価	留学生指導の改善の課題について具体的な検討がなされており、当初の目標が達成されている。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

人間社会研究科の研究活動を活性化する方策については、検討されたものの具体的な対応まで至っていないが、今後具体案が決められ、研究活動が一層活性化することを期待する。福祉社会専攻においては、学位授与方針と教員組織に応じた科目配置や系の見直しをはじめとしたカリキュラム改革の方針については、教員懇談会で3回検討が行われており適切な対応がとられている。今後専攻内での活発な議論を通じて、熟成された新カリキュラムが完成することを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

また、全ての科目の成績を点検し、成績評価に偏りが無いことを確認したことは、成績評価の適切性を検証した例として大きく評価される。また、修士論文の中間・構想発表会の日程を検討することにより、教員の出席率を改善させた。人間社会研究科は文系の研究科の中では安定して入学者が確保できているが、学内進学者を拡大する検討がなされていることは高い評価に値する。さらに、増加する留学生への対応として、新科目の創設を目指した検討がなされていることも評価できる。今後は、これらの検討事項が科目設置等、実現されることを期待したい。

【大学評価総評】

人間社会研究科は、改革意識が高く教員組織と教育課程の両面から現代に見合った形に整備されている。まず、質保証体制であるが、2専攻体制の比較的規模の小さい研究科であるのにも関わらず、研究科長および学部長経験者により組織され、研究科長・専攻長にインタビューを行うなど、質保証の要であるPDCAサイクルを実質的に機能させている。この質保証体制を基軸に組織と教育の改革が継続的になされていることは高い評価に値する。

教員組織においては、上記の質保証体制の他、執行部が運営の責任を持ち、教育に対しては研究科教務委員が組織され、それぞれが役割を分担することにより効果的な運営を実現させている。教員組織の年齢構成もバランスが取れており、長期的な観点から組織体制を構築していることが伺える。

一方、教育に関しては、未整備な研究科もある中で、修士・博士両課程においてコースワークとリサーチワークが有機的統合された効果的な教育が行われていることは大きく評価される。シラバスについても教務委員が全てのシラバスをチェックするなど確認と適切性の検証がなされている。さらに、学生の受け入れについては、安定した好ましい定員充足率を保っているが、これまでのカリキュラム上の工夫や広報戦略が功を奏した結果であり、研究科にとっては当然の結果というべきことかも知れない。これらの努力は充足率の低い他の研究科が見習うべきことではないだろうか。

このような好ましい状況においても、教育・研究の両サイドからさらなる改善に向けて多くの検討がなされていることは大いに評価される場所である。研究科の今後のさらなる飛躍に期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。